

審査員

柳沢秀行 / Hideyuki Yanagisawa

公益財団法人 大原美術館 学芸統括。なんでそんなんプロジェクトアドバイザー。筑波大学芸術専門学群芸術学専攻卒業。1991年～岡山県立美術館。2002年～大原美術館。日本の近現代美術史研究を基軸に美術(館)と社会の関係についての調査、実践を行う。絵画や彫刻のようにモノとして存在するアートのみならず、世界の姿をみつめ、再認識を促すアートの在り方にも関心を持つ。



菅原直樹 / Naoki Sugawara

劇作家、演出家、俳優、介護福祉士。「老いと演劇」OiBokkeShi 主宰。四国学院大学非常勤講師、美作大学短期大学部非常勤講師。平田オリザが主宰する青年団に俳優として所属。小劇場を中心に、前田司郎、松井周、多田淳之介、柴幸男、神里雄大の作品などに出演する。2010年より特別養護老人ホームの介護職員として勤務。2012年、東日本大震災を機に岡山県に移住。2014年「老いと演劇」OiBokkeShiを岡山県和気町にて設立し、演劇活動を再開。並行して、認知症ケアに演劇的手法を活用した「老いと演劇のワークショップ」を全国各地で展開。2016年より活動拠点を岡山県奈義町に移す。平成30年度(第69回)芸術選奨文部科学大臣賞新人賞(芸術振興部門)受賞。



ミロコマチコ / mirocomachiko

1981年大阪府生まれ。いきものの姿を伸びやかに描き、国内外で個展を開催。プラチスラバ世界絵本原画ピエンナーレ(BIB)で、「オレときいろ」(WAVE 出版)が金のりんご賞、「けもののおいがしてきたぞ」(岩崎書店)で金牌を受賞。その他にも著書、受賞歴多数。第4回 巖谷小波文芸賞受賞。本やCDジャケット、ポスターなどの装画も手がける。2019年より南の島に移住し、見えないものの気配を感じるように制作をしている。http://www.mirocomachiko.com



曾我大穂 / Daiho Soga

音楽家。多楽器奏者。舞台演出家。音の出るあらゆるものを使った即興演奏を得意とする。1999年、沖縄にてジャムバンド「CINEMA dub MONKS」を結成。バルセロナやベルリン、ニューヨークなど世界各地で活動する。ハナレグミ、二階堂和美、原田郁子(クラムボン)、照井利幸(ex.BLANKEY JET CITY)、キセル、mamamilkなど多岐に渡るライブ・レコーディングサポート。テレビCM音楽の演奏・制作や、他ジャンル(映画、ダンス、演劇、写真、美術、小説)とのセッションも多い。2014年からは舞台芸術グループ「仕立て屋のサーカス」を主宰。基本設計を手がけるとともに、全公演で演出・出演を行っている。「アートの社会実装」を掲げ、歴史学者、文化人類学者、映画監督、地方自治体、出版社、美術館といった多彩なパートナーと共に作り上げるそのパフォーマンスの舞台は、劇場を飛び越え、教育分野や地域コミュニティへと広がっている。



阿部 純 / Jun Abe

1982年東京出身。広島経済大学メディアビジネス学部メディアビジネス学科准教授。東京大学大学院学際情報学府博士課程単位取得退学。専門はメディア文化史。研究対象は、墓に始まり、いまは各地のリトルプレスをあさりながらのライフスタイル研究を進める。共著に『現代メディア・イベント論—パブリック・ビューイングからゲーム実況まで』、『文化人とは何か?』など。在住の尾道では「AIR zine」という小さな冊子を発行。



滝沢達史 / Tatsushi Takizawa

1972年生まれ。多摩美術大学卒業後、10年間特別支援学校の美術教諭として勤務。以後、美術家として日本各地のアートプロジェクトに参加。地域課題から教育・福祉など多岐にわたる活動を展開。近年では、不登校・ひきこもりとの協働「表現の森」(アーツ前橋)や、自身で立ち上げた児童福祉施設「ホハル」の代表を務めるなど、教育と福祉を面白おかしく模索中。なんでそんなん大賞には第一回から審査員として参加。なんでそんなんエキスポではディレクションを担当している。



お問合せ / INFORMATION

なんでそんなんプロジェクト実行委員会

Email | contact@nandesonnann.com

Homepage | nandesonnann.com

Facebook | facebook.com/nandesonnann.project

Instagram | instagram.com/nande_son_nan

株式会社ぬか / 生活介護事業所 ぬか つくるとこ

Tel | 086-482-0002

Email | info@nuca.jp

Facebook | facebook.com/nuca.jp

Instagram | instagram.com/nuca_tsukurutoko/



なんでそんなん HP

NANDESONNAN AWARD

第4回

なんで そんなん 大賞

第3回大賞

応募期間 2024年1月31日まで

審査会・発表 2024年2月25日

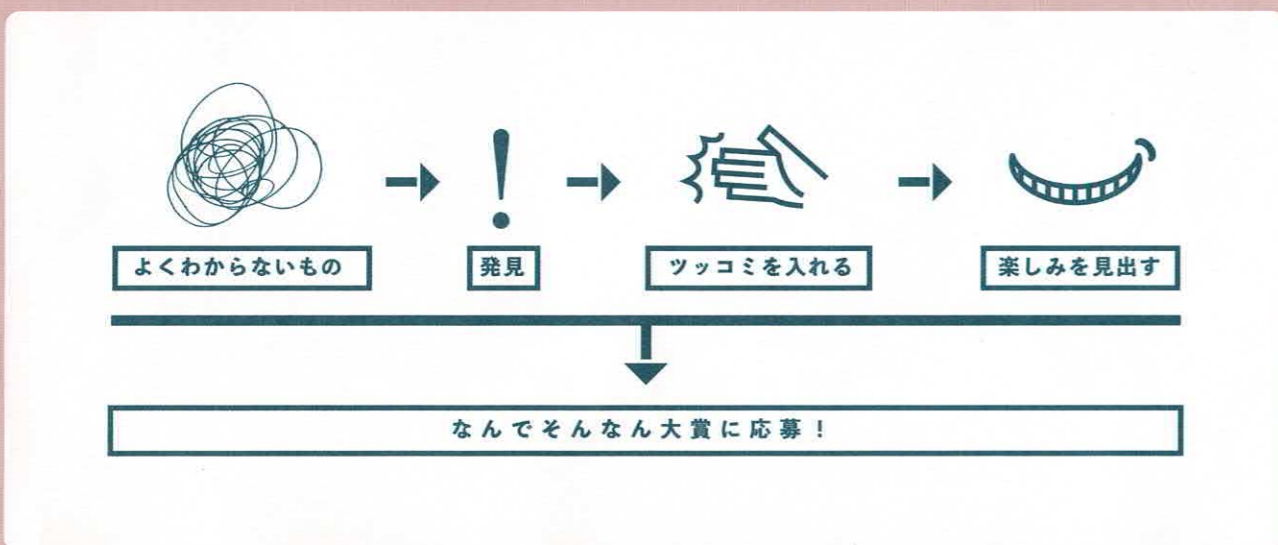


あなたのまわりの「なんでそんなん」募集中!

なんでそんなん大賞とは

about
NANDESONNAN AWARD

自分では「理解しがたい」他者の行為やデキゴトを「なんでそんなん」と名付け、それに対してツッコミを入れて面白く捉え直す「なんでそんなんプロジェクト」。日頃よりオフィシャルホームページ（nandesonnan.com）の投稿フォームより、皆さんの身の回りにある「なんでそんなん」を募集していますが、「なんでそんなん大賞の応募期間中」に投稿していただいた「なんでそんなん」を対象に2023年度「第4回なんでそんなん大賞」の選考を行います。大賞賞品は米一俵！皆さんのご応募お待ちしております！



応募期間 2024年1月31日 水 まで

審査会・発表 2024年2月25日 日 結果はホームページ または SNS にて公表します

賞品 大賞 | 米1俵 60kg (山田村)
審査員賞 | 米10kg (山田村) / 味噌3kg (まるみ麺本店)
以下のうちどれか | 甘酒など発酵セット (菊池酒造) / または 審査員セレクトの賞品

投稿先 <https://nandesonnan.com/post/> 投稿フォーム

収集対象 全ての人を対象にします (年齢・性別・国籍・障害の有無などは問いません)



事例 / CASE

ゼロノート

作者 | Ryoma

発見者 | 父

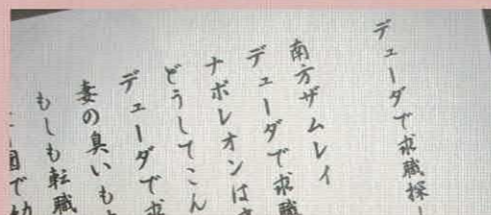
彼の休日はエレベーターでフィールドワークを行う。小さい頃はエレベーターに乗って行ったり来たり、独自の文字が出現し書きものが好きになると、様々なことをノートに書くようになった。エレベーターもその一つ。半日ばかりでエレベーターに乗る人を調査している。これなあに？とノートを指差し聞くと「ゼロ」と答える。なんだかよくわからないまま、助手を務めて10余年。ゼロとは何か？答えはなくとも息子と過ごした証は残る。



第3回
大賞
GRANDPRIX



第3回
堀口直子賞
NAOKO HORIGUCHI
AWARD



読経少年隊

作者 | ベイベイ君

発見者 | キングコング2

吃音とうまくつき合う方法を模索しているベイベイ君。先週は、ことばの教室の備品である「木魚」に一目惚れし、どんな文章もお経のように読んでしまう読経少年に変身した。そして今日、どこでそんな知識を得たのか？吃音の先人であり、風呂に入らない妻の体臭を好んだという変態皇帝ナポレオンの国葬儀をやりたいと、即行動に移したベイベイ君は、お経を即興創作。たまたま本校から居場所を探して漂流してきた3名の児童を巻き込んで「読経少年隊」を結成し、一切ドモることなく、見事にお経を読み上げた。ワケがわからないまま巻き込まれた3人は、一様に「なんでそんなん!？」という表情をしていた。

2

飛ばない多量の紙飛行機

行為者 | 森田尚吾

投稿者 | 中村武文

通所している施設でも、突然紙飛行機を多量に折り始め、しばらくすると全く折らなくなりました。その紙飛行機は、とても丁寧に美しく折ってありますが、飛びません。飛ばすとクルクル回り落下します。飛びませんが、小学生が来ると嬉しそうにプレゼントしています。今回「なんでそんなん」で紹介しようとして、もう一度確認していたら、もう一ヶ所折ると飛ぶことが確認できました。大急ぎで本人に報告したら「知っとる」と言われました。

3

第3回
豊島吾一賞
GOICHI TOYOSHIMA
AWARD

